

2017年9月1日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 谷本 寿男

ケニア国モンバサ港ゲートブリッジ建設事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2017年8月4日(金) 14:00～15:19
 - ・場所：JICA 本部(2階 212 会議室)
 - ・ワーキンググループ委員：久保田委員、清水谷委員、谷本委員、村山委員
 - ・議題：ケニアモンバサ港ゲートブリッジ建設事業建設事業(協力準備調査(有償))に係るスコーピング案についての助言案作成
 - ・配布資料：ケニアモンバサ港ゲートブリッジ建設事業 SC 案回答表
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第82回委員会)

- ・日時：2017年9月1日(金) 14:30～17:32
- ・場所：JICA 市ヶ谷(2階 202A・B 会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 本事業で必要なキャンプ場、資材置き場、工事用道路等については本調査の中で概略の検討を行い、その結果を DFR に記述すること。

環境配慮

2. 南部大陸側のアプローチ道路に隣接する入り江の小規模マングローブ林の生態系への影響について調査し、その結果と保全のために必要な緩和策を DFR に記述すること。

社会配慮

3. 事業予定地の南部大陸側のアプローチ道路に隣接する入り江の小規模なマングローブ林で営まれている漁業について調査し、漁業従事者数や漁獲の種類や量、また想定される負の影響と必要な緩和策を DFR に記述すること。
4. ジーザス要塞の景観に著しい影響はないと想定されるが、世界遺産登録に係る申請書及び世界遺産管理計画を確認し、もし対応が必要と考えられる場合には、実施機関、関係機関等と協議し、必要な緩和策を DFR に記述すること。
5. 南部大陸側のアプローチ道路の盛土区間においては、騒音・振動や通行の遮断、コミュニティの分断等の社会環境面についての評価を行い、その結果と必要な緩和策を DFR に記述すること。
6. 雇用や生計手段等を含めた地域経済への影響に関する予測・評価については、フェリー操業従事者、階層別のフェリー利用者も対象に含めて実施し、その結果を DFR に記述すること。
7. 住民移転計画の作成支援では、移転先の確保可能性と整備内容を調査し、その結果を DFR に記述すること。

以 上